

<手足口病>

今回は手足口病についてご紹介します。夏場に流行する夏風邪の1つです。ウイルスが主な原因で、保育園など幼児が集まる場所で集団感染するので子供に多いと言われてはいますが、大人でも罹る病気です。飛沫、あるいは接触で感染し、潜伏期間は3~6日間ほどで多くは自然に治癒しますが、まれに髄膜炎、脳炎などの中枢神経系に合併症を起こすこともあるため、初期症状を見逃さないことが大切です。

【症状】

- ・口の中の痛み、口内に白いポツポツ、高熱
- ・手足の発疹（最終的には2~3mm程度の水疱性発疹）

【感染経路】

- ・飛沫感染：くしゃみや咳によって病原体が飛び散り、周りにいる人の粘膜に付着する
 - ・接触感染：皮膚、粘膜などの接触によって感染するもので、誰かがウイルスのついた手で触れた手すりを触り、その手で目などの粘膜をこするといった間接的な接触でも感染するため完全に防ぐことは困難とされています
 - ・糞口感染：感染している人の排泄物に含まれていたウイルスが、他者の口に入ることで感染することを指します。例えば、トイレの後に手洗いが不十分なままで食べ物を扱うことや、オムツ交換など
- 予防薬やワクチンがないため、手足口病を完全に防ぐのは不可能なので、発熱や痛みに対する治療を行います。夏に好発しやすく痛みで食欲不振が強いと脱水の危険があるので、水分補給はしっかり行いましょう。
- 上記の症状が出た場合は早めにお近くの医療機関へ受診することをお勧めします。